

【目的】

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組

目標に準拠した観点別学習状況評価の取組、ICT環境を生かした指導の工夫

【領域】

球技：ゴール型（バスケットボール）

1 実施の概要

- （１）実施環境：体育館（Wi-Fi環境なし）、オフラインでの使用
- （２）使用機器：タブレット（グループで１台）
- （３）活用ソフト：プレゼンテーションソフト、カメラ機能（動画撮影）
- （４）対象：入学年次（１年次） 女子生徒３５名

2 活用の実際（ICT環境を生かした指導の工夫）

（１）「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組

【学習の流れ】

【導入】

本時の目標
内容の確認

【展開】

レイアップシュートの説明
練習

【まとめ】

本時の振り返り
次時の説明

【活用場面】 場面：展開

レイアップシュートのポイントを、パワーポイントを用いて説明した。正しいレイアップシュートのフォームイメージをもち、意識するポイントを理解してもらえるように、バスケットボール部員のレイアップシュートを事前に撮影し、繰り返し流した。生徒は、グループで実践する人とタブレットで撮影する人とに分かれ、時間で区切り何度か撮影した。タブレットに備わっているアプリ機能のみを利用し、グループ内で分析できるよう工夫した。

【活用場面写真等】



（２）目標に準拠した観点別学習評価の取組

【観点別学習状況評価】

技能

【評価規準】

ゴールの枠内にシュートをコントロールすることができる。
(正しいレイアップシュートフォームを理解して実践する。)

【活用方法】

- ①レイアップシュートの練習をタブレットを活用し撮影する。また、観察による評価を実施した。
- ②授業後、保存した映像を確認し、観察行った評価との確認を実施した。

【活用場面写真等】



3 参加した生徒の感想等

- ・中学生の時もレイアップシュートを練習したが、初めて動画で撮影して自分の姿を第3者の視点で見ることができた。なぜできていないのか、なぜ失敗したのかを振り返り改善することができたので、とても良かったです。
- ・バスケ部員と自分の姿を見比べて、何が違うのかをグループのみんなと話し合えて発見することができた。みんなにアドバイスをもらえて嬉しかったです。
- ・動画で自分の姿を見たら、自分が思っていた以上にフォームが不格好であった。みんなで改善点を見つけ出し、何度も練習することで少しは格好いいフォームになったと思います。
- ・シュートの成功率が上がりました。ゲームで初めてレイアップシュートが決まった時は、とても嬉しくてみんなとハイタッチをして喜ぶことができたので、最高に楽しかったです。

4 成果と課題

（１）「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組

【成果】

レイアップシュートのポイントを簡潔に示し、フォームを動画で撮影して、グループで話し合うことで、お互いに良い点を褒め合ったり、互いの改善点をアドバイスし合ったりすることができた。その結果、1時間の授業内で、レイアップシュートを成功する生徒が半数以上を超えた。また、その後の授業でゲームを実施した際に自己のシュートをタブレットで確認する前に比べシュートの成功率が格段に上がった。

【課題】

タブレットで撮影する位置を1カ所に統一したが、様々な角度から撮影することで見る視点が増え、グループでの話し合いがより深まると感じた。

ICTを活用し動画を撮影をすることで学びを深めることは出来るが、活動量が減ってしまうので活動時間の確保が必要だと感じた。

（２）目標に準拠した観点別学習評価の取組

【成果】

観察評価だけでは、何度も試技を確認することはできないが、ICTを用いて試技を撮影し保存しておくことで、後から何度でも見返すことができ、正確な評価ができると感じた。

【課題】

1カ所で動画の撮影を行ったことによりレイアップシュートの技能評価に苦慮することがあった。より正確に技能を評価するためには、複数の方向から撮影することが必要であると考えた。